

# 私たちの考える情報ネットワーク

地区センターの情報コーナーを拠点にして

三宅喜代子

- 一—はじめに
- 二—いま私たちをとりまく情報は…
- 三—人間と人間のつなぎあいとしての情報
- 四—情報コーナーを拠点に
- 五—まとめ

## 一—はじめに—市民提案として

昭和五十八年十一月、横浜市市民

局婦人行政推進室の市民提案の呼びかけに応じて「地域に情報コーナーの設置を」を提案、表—1にみるような経過で各種のつどいや港北区市民課、市長への手紙で訴えてきた。三年半余の歳月を経たが、まだ実現をみていない。

情報コーナー設置の提案の理由ときっかけは次の三つである。

①地域で開講する篠原セミナーでの

学習を深め、広め、行動につなげていくために地域で暮らす人々が何を考え何を問題にしているかを知るためである。

②基本構想委員に加わった横浜女性センター（仮称・昭和六十三年秋開館予定）がうたう情報機能が単なる無機質な情報のら列ではなく、地域と連携した生きた生まの情報が往き交うためである。

③提案者として各種つどいに参画する過程で、人々が求めている情報とは単なるデータやお知らせ、行政側からの一方的な流れの情報ではな

く、人と人とつながりあい、ふれあうという行き交いであることを痛感したからである。

以下、私たちをとりまく情報の状況、私たちはどんな情報を求めているか、そのための手立てとしての情報コーナーとはどのようなものかについて述べてみたい。

## 二—いま私たちをとりまく情報は…

情報は…

①みんな情報を求めている

—横浜に越してきて二年になりま

すが友だちができず孤独です。どこへ行ったら仲間づくりができるでしょうか。

—一緒に文学の勉強をする仲間がほしいのですが、どこにそういうサークルがあるのかわからない。

—老親をかかえて途方にくれています。老人介護の知識はどこで教えてくださいませんか。

—子育ての悩みを語りあう友だちがほしい。

—パートで働きたいが就職情報はどこへ行けばわかりますか。

—近くの地区センターでよい講座

表一 提案「地域に情報コーナーの設置を」の取り組みと経過

昭和58年11月	市婦人行政推進室の呼びかけに応え「情報コーナーの設置を」提案、①地域団体の実態調査と住民への公表、②団体相互の交流、③情報交換の場としての情報コーナーの常設、④他地域他機関とのネットワーク化。
昭和59年3月23日	市婦人行政推進室主催「市民提案を考える婦人のつどい」にて発表、賛同多し。
10月	市民提案を一部修正して港北区市民課に「菊名地区センターに情報コーナーの設置を」を提案、人件費などの予算化が困難であるとして不受理。
昭和60年2月	市教育委員会、区役所主催「港北区婦人のつどい」にて「情報コーナーの設置を」提案。出席者の賛同を得たが情報の内容や具体的方法まで詰められず。
4月	情報コーナーのデータベースとしての地域サークル実態調査開始。
10月	情報コーナー整備事業の予算化再申請。人件費支出が困難なら書架とホワイトボードだけの設備で人的資源についてはボランティアでという内容に変えた。30万円の予算で菊名地区センターに書架とホワイトボード設置の可能性大となる。
昭和61年1月	行政側の人事異動に伴い提案再び白紙状態に。却下理由①市の情報公開制度に伴い必然的に上から下ろされてくる事業だからいま区段階で取り組むことはない、②文化センター設立の計画が具体化された段階で考えればよい、③区市民課窓口、区民相談室の機能と競合する、④区役所、地区センター、図書館職員の業務負担が増える。
4月	サークル名簿完成(169サークル、700部)、公共施設に配置、各サークルに無料配付。一般希望者には1部300円で販売、2年後改定予定。
6月4日	市長への手紙で「情報コーナーの設置を」を訴える。
10月31日	市広聴課より内容聴取に。「善処します」とのこと。

が開かれているのを知らずに、高いお金を出して民間のカルチャーセンターに通っていました。

以上は、市婦人行政推進室が主催した「市民提案を考える婦人のつどい」や市教育委員会主催の「港北婦

人のつどい」での参加者の声である。また市総務局が市情報公開制度設立に先がけて行った「市政情報公開・提供とその整備に関する意識調査」(昭和六十年九月)でも情報公開制度が実施されたら「利用したい」が

九二%である。が、その内訳をみると、「ぜひ利用したい」九%、「利用することはない」八%で、「必要があれば、利用したい」八三%となっており、市民の情報の中身(質)に対する要請がはっきりと示唆されている

② 情報は十分か？

「広報」をよく読みなさい。ちゃんと書いてありますよ、と区の人はいいますけど、居住区の地区センターのお知らせは出ますが、すぐ近くにある他区の地区センターの情報は入ってきません。(港北婦人のつどい)から)

情報は溢れているようで実はそうではない。たとえば、社会教育に類するものは地区センターの他に県や市の施設、国大、市大、私立大を開放しているもの、県立高校のコミユニティ・カレッジ、それに図書館、博物館、考古館等多数あり、しかも内容の知らせが時期的にバラバラで非常にわかりにくい。市民がその要求関心に従い、何をどう学んだらよいかを考えるのに不便である。自分が学びたいものを計画し、選択することが出来にくい。市発行の「暮らしのガイド」には文化施設のところ問い合わせ先が書いてあるが、県立高校などはいつどの学校で

どんな内容の講座が行われているかわからず、市民はある日広報を見た  
り、町内会から回覧がきたりして、  
自分の生活設計を変更したりして参  
加したり、またやりたかったものに  
参加出来ず口惜しい思いをしたりす  
る。市発行の「赤れんが」にはその  
時々の講演のお知らせは出ているが  
全市民には渡らない。全市民的な広報  
が年二回位各戸に配布されるとあり  
がたい。横浜市は移入の多いところ

だから地区センターの窓口には、隣接  
する施設の少なくとも一年間分の内  
容、予定、募集期間、費用、問い合わせ  
先の電話番号がある一覧表があ  
ると便利だが……。 (市大公開ゼミ  
ナール「横浜市の地区センターの現  
状と問題点」から)

以上の声や指摘からもわかるよう  
に、情報が生活空間を無視した形式  
的な行政区内に規制され、情報提供  
の手段、期間がバラバラで、受け手  
が意図的に計画性をもって情報収集  
に出むかなければ、ほしい情報が入  
手できない状況にある。

③「広報よこはま」区版の限界  
全区民を対象にした唯一の情報紙  
「広報よこはま」区版は次のような  
限界がある。

⑦全区民が入手していない。広報は  
区役所区民相談室窓口においてある  
が、区民の多くは町内会・自治会経  
由で入手する。したがって町内会・  
自治会に入会していない区民は区役  
所へ出むかない限り入手することは  
まずない。

⑧通読率は一七%と低い(昭和六十  
一年区民相談室アンケート調査)。

⑨掲載内容が限定されている。紙面  
の都合上掲載内容は公的行事の一部  
のみで、新設なった大倉山記念館の  
催しはいつさい載らない。掲載記事  
の締切日が早いいため速報性に欠け、  
内容も行事の形式的な列で内容まで  
は把握できない。公的行事の多い四  
月、五月は削除されるものが多く、  
選挙月には投票場案内で埋めつくさ  
れ他の情報はカットされてしまう。  
⑩情報の地域間格差が著しい。総合  
区庁舎など公的施設の集中する大倉  
山・菊名地域の情報が主となり他地

域の情報がきわめて少ない。

④情報窓口としての区市民課、  
区民相談室の利用度

区民にとって唯一の情報窓口であ  
る市民課は区役所四階にあり、カウ  
ンターには県・市・区などのチラシ  
やパンフといった情報紙が並べてあ  
り、直接または電話による問い合わせ  
せに依じている。しかし区民の情報  
窓口としての位機能しているかは

疑問である。直接窓口にくるのは一  
日数人いるかいないか、電話による  
問い合わせもきわめて少なく、それ  
も大半は、転校手続や保育園・幼稚  
園の入園手続といった戸籍課への案  
内であるという。

区民相談室は区役所入口右手にあ  
り、特別相談日が表12のように設  
けられているが、一カ月間、曜日  
をたがえて区役所へ出向いたが相談す  
る区民の姿を見かけたことはなかつ

表一2 区民相談室特別相談

種類	実施日
法律相談 借地・借家、相続、離婚、負債、近隣との トラブルなどに弁護士が応じます。	毎週水曜日 12:45~
交通事故相談 保険の請求、示談、慰謝料など損害賠償問 題について相談員が応じます。	毎週金曜日 9:00~16:00
消費生活相談 訪問販売や業者とのトラブルなどや買物相 談の問い合わせに応じます。	毎週月・水曜日 10:00~16:00
高齢者職業相談 高齢者の生活安定と雇用促進のため、労働 大臣の許可を受けて職業紹介を行っていま す。	毎週火曜日 13:00~16:00 (第5週は除く)
建築相談 家屋の新築、増改築に関する問題、地域の 町づくりの相談に建築カウンセラーが応じ ます。	第1・3金曜日 13:00~16:00
商工経営相談 経営、金融、法律など工場、商店の中・小 企業の経営に関する相談に応じます。	第2・4木曜日 13:00~16:00
登記相談 不動産登記、商業法人登記などについて司 法書士が相談に応じます。	第1火曜日 13:00~16:00
行政相談 行政問題一般について行政相談員が応じま す。	第2・4木曜日 13:00~16:00

資料:「わたしの便利帳」港北区区政推進課 昭和59年10月

表一3 多様なくらしの情報新聞情報欄から

商品情報	住まい・着る・食べる・レジャーに関する新商品、おもしろい商品、読者からの推奨商品紹介
デパート情報	定休日・特別展のお知らせ
レジャー情報	ハイキング、歴史散歩、ダンスの会のお誘い
プレゼント情報	企業からの無料進呈物
スポーツ情報	スポーツ日程・スポーツ大会、講習会のお知らせ
ショッピング情報	バザール、即売会、チャリティフェア
募集	企業からのキャラクター商品の愛称募集など
お知らせ	公的機関の労働相談、高齢者相談、法律相談など
催し	企業やデパートのイベント
音楽	コンサート、公演
映画	特別試写会・上映会の招待などのお知らせ
舞台	劇団の公演、つどい
博物館	博物館の催し、教室案内
展覧会	絵画、工芸民芸、彫刻造形、写真・ビデオ
美術館	美術館の催し物
講座・講演会	行政・大学・新聞社主催の催し
戦後40年	戦友の消息
県人会	県人会のお知らせ
同窓会	同窓会のお知らせ
交差点	
尋ね人	消息不明の人を尋ねる
ボランティア	ボランティア活動のお知らせとボランティア募集
お願い	貸して下さい、寄付して下さい
おかげで	お願いに対する御礼
◎サークル	サークル紹介、会員募集
名簿づくり	同窓会の名簿づくりにご協力を
◎リサイクル	売ります、あげます、譲って

注：◎は特に多い情報

資料：朝日新聞 昭和61. 3. 20

表一4 若い世代の求める情報若い人たちに読まれている情報誌から

雑誌	発行所	
PHP	PHP研究所	人間関係に関する問題、悩み、どう克服したか
いんなあとりっぶ	いんなあとりっぶ社	自分とは、自分をどう出していくか、自分づくりをどうしていくのか
SAY	青春出版社	若い女性の価値観、結婚観に対するアドバイス
BIG tomorrow	青春出版社	メンタルヘルス、現実にはぶちあたった壁や障害をどう打解していくかについてのハウツーや相談相手になるような情報
Tarzan	マガジンハウス	自分の体や健康、性を自分のライフスタイルのなかでどう創りあげていくか

注：各編集長が数年若い人たちのニーズの高い情報としてあげ、編集方針として強調しているもの

資料：出版情報誌「Rack Ace」1986. 5

① 若い世代は「モノから心」に関する情報を求め出したと

② 分野別・系統的に整理され組み合わせ可能な情報単に膨大なデータがら列されてはならず、それらが分野別、系統的に整理され、多重的多層的に組み合わせができるものでなければならぬ。

③ 個別化された具体的事例としての情報

た。

以上のことから、私たちをとりまく情報はきわめて不十分であることがわかる。こうした情報不足に対して区の職員は「広報を読めばわかるはず」と言い、「パンフなど地区センターの無人スタンドに置いておくと、メモ用紙にと一人でござと持

っていつてしまう」と嘆く。しかし多くの区民が情報を求めているにもかかわらず広報が読まれているにいと、パンフをメモ用紙代りに持つていつてしまうことは、行政側のいう情報と私たちが求める情報とがその内容、あり方において大きな乖離があるように思われてならない。

では私たち住民が求めている情報とは何かについて考えてみる。

三——人間と人間のつなぎあいとしての情報

篠原セミナーの学習活動その他の資

料を通して、市民及び地域の人々がどのような情報を求め、伝えあいを要望しているかをまとめてみよう。

① データベースとしての大量の情報ベースとなる情報は多ければ多いほどよい。くらしの情報(表一3)一つをとってみても、くらしの多様化に即応して実に多様かつ膨大であることがわかる。が、そのデータは必ずしも一カ所にストックされている必要はなく、求める情報がネットワーク化によって他から収集できればよい。

② 分野別・系統的に整理され組み合わせ可能な情報単に膨大なデータがら列されてはならず、それらが分野別、系統的に整理され、多重的多層的に組み合わせができるものでなければならぬ。

③ 個別化された具体的事例としての情報

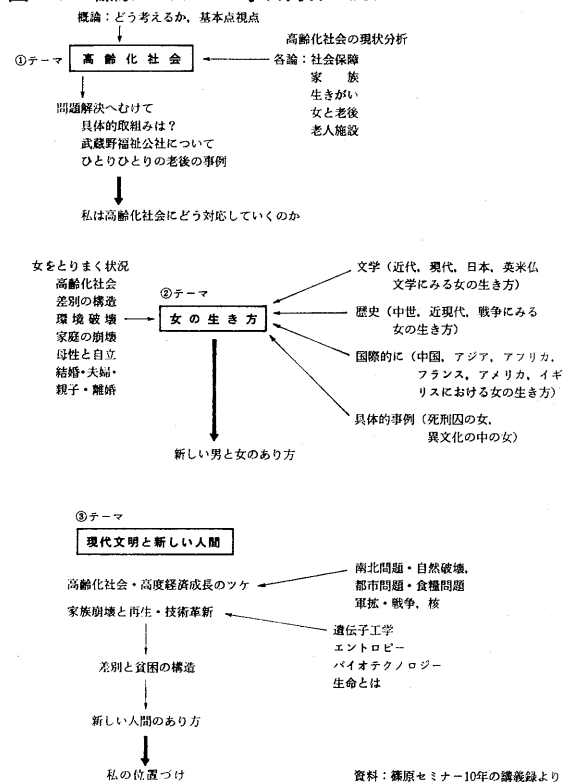
いわゆる(表14)。自分づくり、自分のライフスタイルの選択のためには、自分がシンパシーを感じる人間の生き方、生活の仕方というきわめて個別的で具体的な情報こそ価値があり、一般的客観的なものへの評価は低い。これは子育て中の母親にしても同様で、子どもの育て方、教育問題に関する情報は個別的、具体的であり、同時に詳細で心の問題といった深層部にまで入りこんだものでなければ情報として意味をもたなくなっている。高齢者も自分の第二の人生の指針となり、老後の健康や闘病に関する情報として求めるものは、統計表にみるデータではなく、具体的事例としてのデータの蓄積なのである。

⑤ ペーパーレス、映像音声による情報個別化されフィーリングを伝える情報に伴って、ペーパーレスの情報手段が求められる。この傾向はとりわけ若い人たちが高齢者に強い。篠原セミナーにおいてもスライド、映画、現地見学、裁判傍聴、観劇等ペーパーレスの多様な学習方法への要請が年々強まっており、毎回の講義の収録テープの利用者も多い。文化・芸術活動の活性化に伴い、そのニーズはますます高まっていくと思われる。

⑥ 人間と人間とがつながりあうものとしての情報

①⑤までを集約させるものとして人々は一様に人間と人間とがつながりあうものとしての情報を求めている。つまり語りあい、つばやきあう相手や、友だちを、仲間を求めているのである。このことは新住民の比率の高い横浜市においては、どの区でも大きな課題にちがいない。人々は目的意識的にある情報を得ようと地区センターなどにやってくるのではなく、人と出会うためにやってくる。たとえそこにファイルされたデ

図一1 篠原セミナーの学習内容の流れ



ータがなかったとしても、人または人の集まり、それ自体が膨大なデータの蓄積であり、きわめて個別的、具体的な生身の情報なのである。

長津田地区センターには「木曜コヒー館」がある。毎月第一、第三木曜午後六時から八時三〇分まで、一〇〇円のコーヒード代を払えば誰でも参加できる。「一〇〇円のブルーマウンテンやキリマンジャロがのみ

ほうだい。君がもし学生であつたら年上の人と話してちよつとアダルトな気分を、また、アダルトな人は学生との会話でティーンエージャー時代を味わいませぬか。受験勉強の息ぬきにどうぞ。メンバー一同君の来るのを心から歓迎します」と呼びかけている。中学生から働く人まで幅広い人たちが集まるといふ。

⑦ 自分の生き方への提示となる情報

若い世代は自分づくり、自分のライフスタイルの選択を、私たちはいま自分の置かれている位置の確認を、高齢者は第二の人生の生きがい、というように、自分の生き方への提示となる情報を人間と人間とのつなぎのなかで探索していくのである。これは篠原セミナーの学習の流れの中にも明確にあらわれている(図-1)。

次に、以上のようなニーズに即した情報の拠点としての情報コーナーについて述べてみたい。

四 情報コーナーを拠点に——  
構想・菊名地区センター  
情報コーナー設置にむけて

① 一 場としての要件

菊名地区センターを情報コーナーの場として提案する理由は次のようである。

⑦ 地区センターの位置づけ

地区センターは地域の「仲間づくり」「ふれあいの場」として、「文化的

活動の場」「自主的学習の場」「図書サービスの場」という施設体系をもつものとしてスタートした。未だ行政主導色が濃い、交通の便が悪い、施設面で利用しにくいなど問題は少なくない。しかし住民運動を背景に地域のコミュニティセンターとして根づきつつあることは否定できない。

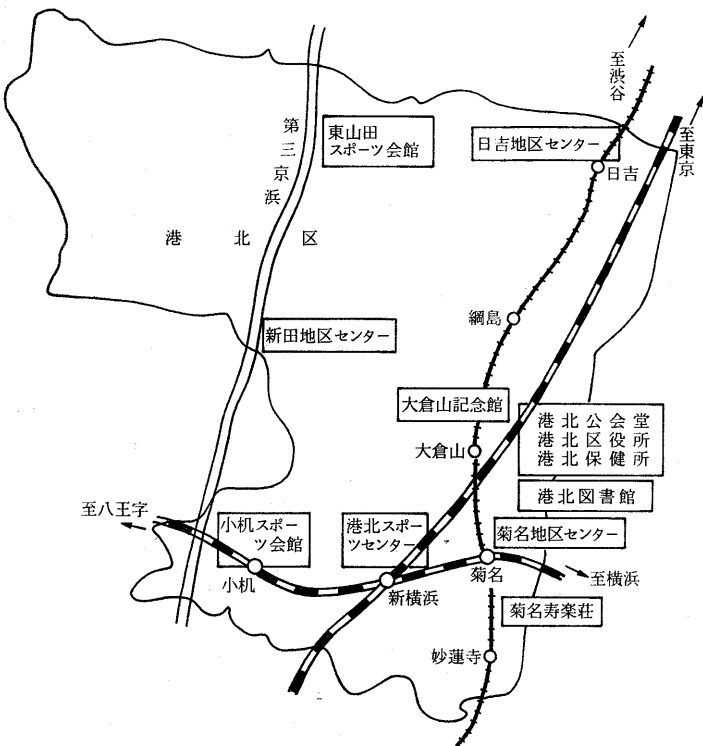
現在、港北区内には三館の地区センターがあるが、菊名地区センターは以下の点で情報コーナーを常設す

表-5 地区センターの施設内容

	延面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>	施設									
		ロビー	図書コーナー プレイルーム	会議室	和室	料理室	工芸室	レクホール	体育館(室)	特設他	
日吉地区センター	899.91	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
菊名地区センター	1083.01	○	○	*2	○	○	○	*3	○	*4	○
新田地区センター	1680.26		*1	○	○	○	○	○	○	○	○

注：\*1 屋外スポーツ広場、\*2 図書館併館、\*3 水道ガス器あり  
\*4 テニスコート隣接  
資料：市民局青少年部施設管理課

図-2 菊名地区センターの立地条件



るのに適している。  
(ア)一定空間が確保されロビー、レクホール、図書館(併設)など施設内容が整備されている(表-5)。  
情報コーナーは一階入口に机、電話、書架、ホワイトボードを置き、一階から三階の壁面をピニアップ情報掲示板として利用できる。  
(イ)人の集まる立地条件にある(図-2)。  
横浜線、東急東横線、新幹線、地下鉄と交通の便もよく菊名駅から徒歩七分、大倉山駅からも近い。区総合庁舎、図書館、スポーツセンター、

表一 6 地区センター利用者層

センター	男女比		年齢層					(%)
	男	女	10代以下	20代	30代	40代	50代	
	菊名	28.2	71.8	21	11	28	15	
日吉	13.4	86.6	8	12	20	23	37	
新田	43.4	56.6	57	0	12	12	21	

(注1) 図書室利用者のみ。(注2) 小学生生徒  
 (注3) 子どもの設備がないため少ない  
 (注4) 元小学校校舎を地区センターとしたため小学生が多い

センター	時間			職業					(%)
	午前	午後	夜間	学生	会社員	主婦	その他	NA	
	菊名	41	35	23	24	10	48	15	
日吉	46	46	8	11	7	73	9	1	
新田	18	75	5	55	4	33	8	0	

(注1) 主婦  
 (注2) 放課後の小学生  
 ・日吉地区センターの7割強が主婦  
 ・新田地区センターは5割強が小学生で主婦が3割強  
 ・菊名地区センターは主婦が5割近いが学生、会社員、その他と多階層

センター	利用頻度		(注)
	1カ月中初めての人	回数	
菊名	16%	46%	日吉地区センターの場合、週1~3回利用者46%と固定化している。
日吉	5%	46%	
新田	3%	46%	

資料：「素顔の港北を知る」自主研修S60.3より試算

区センター職員、⑦図書情報ボランティアが主体となつて管理・運営にあたり、これを関連機関である⑦地区センター利用者会、⑧地区センター職員、⑨図書

③財源  
 ⑦書架とホワイトボード三〇万円で  
 財源は困難な課題だが、初めから大がかりなものにせず、データベ

テニスコート、学校、老人施設、大倉山記念館が隣接し、商店街、レストラン、神社、塾のある住宅街の中にあり、子ども、若い学生たち、主婦、商店の人、子ども連れの父母、老人たちと多様で多様な人の流れがあり、区役所、図書館、買い物、一日の利用者数も四四〇・一人と日吉地区センター(二二七・三人)、新田地区センター(二五三・七人)に比べ多い。

区役所、保健所、公会堂には徒歩七分、図書館は併館、その他スポーツセンター、青少年図書館、学校、老人施設に近いことは先の図一2でみ

た通りである。特に図書館の情報、地区センター利用サークルとの情報交換、区市民課窓口や区民相談室との連携に容易な要件を備えている。

館職員、④区市民課が補佐し、さらに地域の情報専門家が加われば望ましい。

スとなる地域のサークル活動の調査、整備作業を基礎に、地区センターに書架とホワイトボードを設置、階段壁面のピンアップ情報板でスタートすれば三〇万円以下でできる。次に電話を置き、情報コミュニティボランティアを配置、財源確保に伴って人件費や情報誌(紙)発行に充てていく。

④「情報コミュニティ基金」の創設  
財源は原則的には市における地域情報費の予算化によるが、情報が地域コミュニティにとって欠かせないものとの視点から、地域の企業、商店、団体による賛助金、寄付金、広告費を募り、これに地域サークルの分担金を加えて「情報コミュニティ基金」を創設する。

⑤情報の一部有料化  
情報はそれ自体商品価値があるとの考え方に基づき、情報の一部有料化を図る。情報コーナーで収集されたデータを集約、整理し、ミニコミ誌(紙)、情報誌(紙)、資料集を発行し安価で販売することも考えられてよい。

その他、情報コーナーの発展、規模拡大の過程でプライバシー問題や情報リテラシーの問題が課題となるだろうが、それらも地域の情報ボランティアを中心に、地域に即した解決の手立てがなされてこそ意味があるものとなる。

五 まとめ

①新しいコミュニティの要請

いま私たちのくらしは大きな変容を遂げつつある。核家族世帯の増大、高齢化社会の進行に伴う単身者世帯の増大、多様な就労形態と労働時間短縮による地域生活時間の増大は、本来の伝統的な家族や家庭の機能を喪失し、変容させた。そしてそれらを補完するものとして地域コミュニティは大きな役割を担うようになり、その地域コミュニティの核となるコミュニティセンターが地域住民の情報の行き交いの場となるだろう。人々はそこを拠点に学習、文化、スポーツ、芸術などさまざまな自主的な活動を通して自己実現の活性化

を図っていくことになるだろう。こうしたコミュニティは、伝統的な共同体とは異なり、個人を束縛しない自由で開放された性格をもち、個人や集団は複数の異なったコミュニティの構成員となり、コミュニティ間を自由に移動するという多中心的、多重層のコミュニティを形成していく。そのためには、個、集団、コミュニティを結ぶ情報ネットワークが整備されることが必須条件となる。さらに情報ネットワークの整備は、人々を、地域を越えた新たなコミュニティを形成させていくことになるだろう。

まだ情報コーナーは実現していない。しかしデータベースとして作成され「標」と名付けられたサークル名簿(資料)はわずか七〇〇部にすぎないが、すでに社会教育事業運営委員会の公募呼びかけの資料として使われ、港北音楽会運営委員会が結成され、区音楽祭が開かれた。そしてその音楽会がきっかけとなり、音楽愛好者たちによる区民オーケストラづくりが実を結ぼうとしている。

小さな拠点としての情報コーナーが各地区センターに設置され、それがい、全区、全市、全県、全世界の人々とは互いに行き交うことによって、情報化社会は一個の人間を、より解放の世界へと導くにちがいない。

△篠原セミナー運営委員長、フリーライターV

資料 サークル名簿「標」の一例

サークル名	ももの会		文化団体
代表者	氏名 西村 たか子 住所 〒223 網島西5-14-17		TEL 542-7348
会員数	15名	会員層	35歳前後
活動場所	港北区図書館会議室		会費 有り 年1,000円
活動回数	月1回 第3火曜日	時間	午前10時~12時
活動内容	子供の本に関する勉強 現在は、小学校低学年の子供を対象にした本の読み合わせ		
掲載コメント	幼児を持つ母親が、子供に良い本を与える為に、子供の本を勉強する事を目的として造られた会です。月1回の例会では、時間の経つのも忘れ、熱っぽく意見が交換されます。		